

吹奏太郎



Chokoku Yatai



Goshuin



Kanuma



Kawakami Sumio
Bijutsukan



Kanumakumiko



Sanaharabunraku



目 次

★ 巻頭言	1
「東関東アンサンブルコンテストにて ～雑感～」	
栃木県吹奏楽連盟副理事長	田中 修
★ 1 第21回 東日本学校吹奏楽大会出場団体の感想	2
令和3年10月9日(土) 中学校	
令和3年10月10日(日) 小学生 高等学校	
会場：札幌コンサートホール Kitara	
真岡キッズハーモニー	柳田 百香
同 指揮者	有馬 大志
真岡東中学校吹奏楽部	部長 中丸 絢音
同	副部長 杉山れんげ
同	副部長 渡邊真紀江
★ 2 第40回 全日本小学生バンドフェスティバル出場団体の感想	3
令和3年11月20日(土)	
会場：大阪城ホール	
阿久津小学校金管バンド	部長 岡本菜々子
★ 3 第27回 東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想	4
令和4年1月22日(土) 小学生 高等学校 大学	
令和4年1月23日(日) 中学校 職場・一般	
会場：千葉県君津市君津市民文化ホール	
真岡西小学校吹奏楽部	顧問 小池 達也
泉が丘中学校吹奏楽部	中村 真緒
同	馬路 詩良
宇都宮南高等学校吹奏楽部	落合 莉子
石橋高等学校吹奏楽部	副部長 小林 瞳子
同 学生指揮者	郷間陽菜乃
矢板ウインドオーケストラ	安達 浄江
★ 4 コンサート・クリニック情報 (令和4年2月15日現在)	8
※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更になる可能性が考えられますので 確認をお願いします。	
★ 編集後記	8
栃木県吹奏楽連盟広報部	沼尾 和子

「東関東アンサンブルコンテストにて ～雑感～」

栃木県吹奏楽連盟副理事長 田中 修 (※文末をお読みください)

東関東アンサンブルコンテスト会場ホワイエにいます。換気のために開け放たれた客席入口から、高校生の熱演が聞こえてきます。午前中の小学生の部では「これが小学生?! 上手いねえ。ウチの中学生に爪の垢でも煎じて飲ませたいね。」なんてことを感じながら聴かせてもらいました。

昼休みには小学生の部審査集計作業があり、集まってきた東関東理事の先生方は、口々に「栃木の小学生は上手だねえ。」と仰っていました。集計結果はその通りになり、栃木県代表グループの多くが金賞を受賞しました。高校生の栃木県代表グループも良い演奏をしています。それなりの結果が期待できると思います。

集計作業では全審査員の点数を確認しますが、ある審査員がいくつかの団体に、表現よりも技術の項目に数点高い点数をつけていました。この採点に対して疑問視する理事の囁きが聞こえましたが、その囁きに、自分は「そっかなあ?」と疑問を抱きました。

小学生の部の演奏で感じたことは前述した通りですが、「上手いねえ。」と感じたのは小学生離れした演奏技術についてであり、表現については、「緊張してるかな?そんなに遠慮しなくていいよ。」と思えたからです。自分が感じた通りに、考えた通りにもっと表現しても良いのにと。人生経験の少ない小学生が大人と同じような表現をしたら不気味でしょうが、小学生ならではの表現を追究して欲しいなど。

文科省の新学習指導要領では思考・判断・表現力が重視されるようになり、これがなんとなく音楽の表現と重なり合うように思えます。自分も授業や部活動でこの能力を伸ばそうと日々奮闘していますが、なかなか成果が見えてきません。指導力不足を痛感する毎日です。

思考・判断・表現力、特に豊かな表現力を身に付けるには、それ相応の人間性が大切ではないでしょうか。豊かな人間性は、多くの人との出会い、出会った人から学ぶ謙虚さ、幅広い見聞と知識、多種多様の体験などから形成されていくように思えます。

部活動ガイドラインで活動時間が短縮されました。「え～、もっと練習させてよ～」と内心思っていますが、四六時中練習しているより、空いた時間で様々なことを経験した方が豊かな人間性が育まれるかもしれません。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためにまた部活動が停止されました。「せっかく部員達が上達してきたのに、またゼロに逆戻り!」と内心嘆いていますが、この時間を利用して様々な情報を入手することで知見を深めることが出来るかもしれません。

加盟団体の皆様、視点を変え、発想を転換することでコロナや様々な障害を克服して、味のある音楽を創って行こうではありませんか。

長々と失礼いたしました。

※田中 修先生は、去る1月30日急逝されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げ、先生のご冥福をお祈りいたします。遺稿となってしまったこの巻頭言は、ご遺族のご理解とご協力を得て掲載させていただきました。

1 第21回 東日本学校吹奏楽大会出場団体の感想

令和3年10月 9日(土) 中学校

会場:札幌コンサートホールKitara

令和3年10月10日(日) 小学生 高等学校

「目指してきた東日本大会」

真岡キッズハーモニー 柳田 百香(真岡東小学校部長 6年)

私たち真岡キッズハーモニーは、真岡小学校と真岡東小学校の合同バンドです。今回、栃木県の小学生として初めて、東日本大会に出場することができました。先生から東関東大会の結果を伺った時「東日本大会に行ける。北海道で演奏できる。」と喜びで胸がいっぱいになりました。メンバーのみんなも保護者の方々も泣いていて、最高の笑顔に溢れていました。

今年度は練習したいと思って制限がかかり、なかなか思い通りに練習が進まないことも多くありましたが、先生方はいつも私たちの気持ちを一つにまとめてくださいました。

私たちにとって札幌コンサートホールKitaraで演奏できた経験はとても貴重なものとなりました。ホールは思った以上によく響き、自分の冒頭のソロも気持ちよく演奏することができました。プログラム一番での演奏はとても緊張しましたが、みんなスッカリとした笑顔で演奏を終えることができ、練習の成果を全て出し切れたことがとても良かったです。

金賞という結果を聞いたとき、私は本当に嬉しくなり、同時に心の中がメンバーのみんな、先生方、保護者の方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。このような最高の思い出をくれた皆さん、本当にありがとうございました。私はこのメンバーと演奏できたことを誇りに思います。

「軌跡」

真岡キッズハーモニー 指揮者 有馬 大志(真岡東小学校教諭)

我々真岡キッズハーモニーは、10月10日に札幌コンサートホールKitaraで開催された第21回東日本学校吹奏楽大会に東関東代表として参加して参りました。このコロナ禍で制限も多く、練習がままならない日もありましたが、逆境にも負けず、ひたむきな努力を続けてきた子どもたちに最高の経験をプレゼントすることができました。空港に向かう帰りのバスの中で、「金賞」という結果が伝えられた時の一同の喜び様は言うまでもありません。

夢の舞台、東日本大会。吹奏楽コンクールの指揮をするようになり、いつかは辿り着きたいと志すことちょうど10年目のことでした。紆余曲折ありましたが、こうして着実に歩いて来られたのも、その時その時の子ども達と保護者の皆様、多くの先生方に恵まれてきたからです。この10年間歩んできた全てが、今回のステージに繋がっていたように思います。

この大会を通して改めて音楽の楽しさ、小学生バンド活動の素晴らしさ、人との繋がりの大切さ、そして子どもたちのもつ無限の可能性に気付くことができました。6年生が卒業したら、かなりメンバーが減ってしまうため、来年度は今から心配ですが、この東日本大会を通じて学んだ事を次のエネルギーに変えて、新たな一歩を踏み出そうと思います。応援ありがとうございました。

「東日本学校吹奏楽大会までの軌跡」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 部長 中丸 絢音

開放感のあるホールでの、どこまでも響いていくような音の響きと、ブレスの音さえも聞こえる静けさと緊張感を経験することができた東日本学校吹奏楽大会は、私にとって忘れることのできない思い出となりました。新型コロナウイルスの

影響により、練習時間や練習方法の制限がかかり、大会に向けて思うように練習できず、苦しんできました。部員一人一人が厚みのある音を出し、自分自身の役目を果たしきることを課題として、限られた時間の中で必死に練習をしました。そして、手に入れることができた東日本学校吹奏楽大会での金賞は、部員全員と顧問の先生方の強い思いが詰まった努力の証です。

「目標達成までの道のり」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 副部長 杉山 れんげ

私たちは、20人という少ない人数で活動してきました。目標は、「東日本学校吹奏楽大会金賞」。昨年度は新型コロナウイルスが流行っていたため、大会がなくなりました。そのため、1,2年生は大会の経験が少なくとても不安な気持ちでした。しかし、講師や先生方のご指導のおかげで部員全員が同じ方向に進み続けることができ、県大会、東関東大会を勝ち進み、東日本学校吹奏楽大会で念願の金賞を受賞することができました。うれしいようなでも、どこか寂しいような感情が押し寄せました。あのときの感情は、一生忘れられません。ここまで支えてくれた皆様のお陰で、私たちは、貴重な体験をすることができました。感謝してもしきれません。

「7分間への想い」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 副部長 渡邊 真紀江

私たちは、第21回東日本学校吹奏楽大会に出場させていただきました。一昨年出場させていただいた際は、金賞に一步届かず銀賞。昨年は、新型コロナウイルスの影響でコンクールが中止。とこれまで何度も悔しい思いをしてきました。今年度の目標を決めるときは、部員20名、全員一致で東日本大会金賞でした。例年に比べて短い練習時間でしたが、私たちは目標達成のため、できる限り努力しました。そして、本番の約7分間、私たちは思いを込めて一心不乱に演奏しました。演奏が終わった際、ホールに響き渡った私たち21名の音は生涯忘れることはないでしょう。先生方、保護者の方々をはじめ、支えてくださった多くの方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。



2 第40回 全日本小学生バンドフェスティバル出場団体の感想

令和3年11月20日(土) 会場:大阪城ホール

「最高の思い出、全日本小学生バンドフェスティバル」

高根沢町立阿久津小学校 6年 部長 岡本菜々子

私たち阿久津小学校金管バンドは、全日本小学生バンドフェスティバル全国大会6回連続出場を目標に、春から練習に励んできました。

今年のテーマは『Make you smile!』。夜に駆ける、Make you happy、竈門炭治郎の歌、紅蓮華の4曲です。ダンスや歌、衣装の早変わり、動くシロフォンのパフォーマンスなど、見る人を飽きさせないのが阿久津小のスタイルです。

19人の小さなチームなので、演奏中に何度もフォーメーションを変えたり、大きなフラッグを使ったり、ダイナミックに見える演出を先生が考えてくださいました。音楽に合わせた速いダンスは、そろそろようにみんなで輪になって何度も練習しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、活動時間が短くなったり練習場所が使えなかったりしましたが、短い練習時間で集中して練習し、撮影した練習動画をそれぞれが家で見ながら復習をしました。

東関東大会で金賞代表が決まると、全国大会に向けてより練習に力が入りました。

迎えた本番の日。昨年は中止で出場することができなかったので、2年ぶりの大阪城ホールです。当日の練習場所から大阪城ホールまでのバスの中、ずっと全員で自分のパートを合唱していました。悔いの無いように最高のパフォーマンスにしようと思いました。

そしてとうとう本番のホールへのドアが開きました。これまでの練習の成果を出し切るぞと気合を入れて自分の立ち位置まで走り、審査員席を見上げました。演奏はあっという間に過ぎ、とにかく楽しんで演奏しました。

そして、待ちに待った結果発表は、バスの中でした。結果はまさかの金賞!いちばん最初に来たのは驚き、次にうれしさ、最後には涙がこみ上げてきました。あの時の気持ちは忘れることができません。全員で出場する最後の大会で、最高の思い出ができました。

応援してくれた全ての方、指導して下さった先生方、練習をサポートし、衣装やフラッグを作ってくれた保護者の方のおかげです。本当にありがとうございました。



3 第27回 東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想

令和4年1月22日(土) 小学生 高等学校 大学 会場:千葉県君津市君津市民文化ホール
令和4年1月23日(日) 中学校 職場・一般

「苦しい期間を乗り越えて」

真岡市立真岡西小学校吹奏楽部 顧問 小池 達也

部活動停止、コンクールへの不参加、合奏禁止、新入部員獲得延期、分散部活動…。挙げ始めたらキリがないくらいに、子供たちは我慢に我慢を重ねてきた。部活動に制限がかかる度に、子供たちの表情が曇る様子を見ても鮮明に覚えている。ようやくステージに上がることができた今回のアンサンブルコンテスト。絶対に全員で出たいという願いを叶えるため、部員全員を打楽器にコンバートし、打楽器アンサンブルに挑戦することにした。飛沫の心配がなく、コロナ禍の中でも練習が継続的にできるからである。

いざ練習が始まった10月下旬。バチの握り方から指導を開始。もちろん最初から上手くは叩けない。毎日壁を向いて、ひたすら基礎打ちに取り組んだ。

11月に入り、曲を決めてパート割りを行った。割り当てられた楽器の練習を始めると、楽器に手が届かない、叩く場所が定まらない、ドレミが読めない、リズムが分からないなど、たくさんの壁に当たる。部活動停止の時期が長かったため、楽譜の読み方がまだ習得できていない児童が多い。一つずつ丁寧に解決していくしかない。

県大会当日は、初めてのホールのステージ、初めての指揮者無しの演奏など、8人それぞれがいろいろな初めてを経験する貴重な日になった。本番前は緊張でブルブル震えていた子も、ステージ上では思っている以上に楽しく演奏できたようで、満足そうだった。結果、金賞代表をいただき、もう一度ステージに立てる喜びを8人と分かち合った。

東関東大会での演奏は、今までの頑張りを全て出し切ることができた快演だった。結果は金賞。大会を終えた今、あの曇った表情は一切見られない。本来の担当楽器ではなかったが、ステージの上で演奏できた喜びがとても大きかったようだ。苦しい時期はいつか抜け出せることを知ったこの8人は、これからも大きく成長できると確信している。



「アンサンブルコンテスト」への道

宇都宮市立泉が丘中学校吹奏楽部 クラリネット 中村 真緒(木管三重奏A)

3年生が引退すると、私たちは部員全員がグループを組みアンサンブルの練習をします。例年木管は同じ楽器同士で編成していましたが、今年はどの楽器も2人以下だったため、私たちはオーボエ、Aサクソフォン、Bクラリネットの異例の組み合わせになり、曲探しから大変でした。決まった曲が「詩曲Ⅱ」。第一印象は、かっこいい!!けど私たちにできるのか…。まず、曲の構成を理解し、次々に変化する速さや拍子を感じることからスタートでした。

コンテストまで2か月弱、文化祭や演奏会練習の合間に時間を見つけては、この難曲の練習に取り組みました。3人で決めた目標は「東関東大会出場」。それに向け、曲のイメージづくりや強弱・音程などお互いに意見を出し合いながら、曲のイメージを大切に練習を進めました。地区大会を通過し、県大会では直前に楽器が割れたり、手を怪我したりなどのトラブルもありましたが、当日は落ち着いて演奏でき、目標の東関東アンサンブルコンテストの出場切符を手にすることができました。

1月に入ると、またコロナウイルスの感染拡大により大会出場が心配な状況になりました。昨年の夏、私たちの学校は市からの要請で東関東吹奏楽コンクールは出場することができず、悔しい思いをした前例があったため不安でしたが、何とかコンテストに出場し、金賞をいただくことができました。

これまで熱心にご指導くださった顧問の森下先生、支えてくださった皆様、応援してくださった皆様、大会を開催して下さった関係者の皆様、本当にありがとうございました。コンテストのこと、努力してきた数か月のことは、これからの糧となる忘れられない思い出です。

「多くの支えがあって」

宇都宮市立泉が丘中学校 オーボエ
馬路 詩良(木管三重奏B)

「代表 ○」 ホームページに掲載された県アンサンブルコンテストの結果を目にしたとき、驚きと嬉しさで何度も見返しました。そして、これまでの練習が報われた喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私たちのチームが東関東大会に出場できたのは、多くの人の支えがあったからだと思います。顧問の森下先生から多くのことをご指導いただき、技術や表現力を大きく伸ばすことができました。部員のみんなは、練習場所を優先的に使わせてくれたり、練習の準備や片づけを手伝ってくれたりなど、たくさん助けてくれました。保護者の方は練習や大会の送迎を始め、いつも私たちを支え応援してくれました。チームの2人とは、練習が大変な時には励まし合い、音楽を作り上げるうえでアドバイスし合い、どんなときでも互いに信じ支え合って乗り切ることができました。



東関東大会の舞台では、少しミスもありましたが、これまでの思いを込め、練習の成果を十分に出し切ることができました。結果は銀賞で少し悔しさもありますが、東関東のステージで仲間と共に私たちにしか表現できない「トリプルあいすⅡ」を演奏することができて、とても楽しく幸せな時間を経験することができました。

これまで、私たちを支え、応援して下さいました皆様、本当にありがとうございました。

「第27回 東関東アンサンブルコンテストに出場して」

栃木県立宇都宮南高等学校吹奏楽部 打楽器パートリーダー 2年 落合 莉子

今回、本県代表として第27回東関東アンサンブルコンテストに打楽器四重奏として出場させていただきました。東関東という大舞台に出場できることを光栄に思うと同時に、緊張や不安も大きかったです。

私たちは「量より質」の言葉をモットーに、コロナ禍での少ない練習時間において、一回一回の練習を大切にしようとして心掛けて練習しました。また、私たちは同学年のメンバーが多く意見が言いやすいため、普段の練習の中で感じたことがあったらすぐに言うようにしたり、お互いの演奏を聴いて意見を言い合ったりもしました。もちろん、思うように練習ができず、演奏面でさまざまな壁がありました。しかし、この4人で様々な試練を乗り越え、課題を解決していた結果、目標として掲げていた東関東大会に出場させていただくことができました。出場が決まった瞬間、喜びに満ち溢れ、メンバー同士顔を見合わせながら、涙を流しました。その時の感動と喜びを私たちは一生忘れる事はないと思います。

コロナウイルス感染症の対策をして向かった東関東大会当日は、ホールがとても広く感じられ、他校の圧巻の演奏を聴くにつれてより不安が高まりました。しかし、演奏前に4人で円陣を組み、「全力で楽しく最高の演奏をしよう」と言い合い、ステージに立ちました。その甲斐もあり、不安を良い緊張感に変えて演奏することができたと思います。結果は銅賞と悔しい面もありますが、大会に向けてやれるだけの事はやり、悔いのない演奏をする事ができ、私たちにとって良い経験になりました。

最後に、東関東という大舞台に立たせて下さった顧問の先生や今まで指導して下さいました方々、応援してくれた部員には感謝の気持ちでいっぱいです。これまで積み上げてきた日々の練習や、大会を通して得ることができた経験を決して無駄にせず、これからの演奏に繋げられるよう、さらに練習を重ねたいと思います。ありがとうございました。



「東関東アンサンブルコンテストに出場して」

栃木県立石橋高等学校吹奏楽部 副部長 小林 瞳子 学生指揮者 郷間 陽菜乃

私達、石橋高等学校吹奏楽部のフルート三重奏とクラリネット五重奏は、第27回東関東アンサンブルコンテストに出場させていただきました。昨年の9月頃から練習を始め、校内オーディション、地区大会、県大会を経て、より良い演奏を目指して練習に励みました。コロナ禍で開催が危ぶまれていましたが、演奏する機会をいただけたこと、とても嬉しく思います。

練習では、曲の完成度を上げるために、基礎から徹底的にレベルアップを図りました。朝練や昼練を毎日のように行い、演奏を録音するなどして、客観的な視点で自分達の演奏と向き合いました。自分達で試行錯誤を重ねて練習していくことは簡単ではありませんでしたが、顧問の先生や講師の方にもご指導をいただき、よりよい演奏につながりました。東関東大会へ出場できると分かったときはとても嬉しく、また仲間と同じステージで演奏できる喜びを感

しました。それからは、東関東大会というレベルの高い舞台のプレッシャーで、自分達で演奏の可能性を狭めてしまい、純粋に音楽を楽しめず、伸び悩んだ時期もありました。しかし、講師の方に、自分達で型を作らず自然な演奏をするようにとお言葉をいただいたおかげで、意志を持って演奏ができるようになりました。

大会当日は、緊張しましたが、今までの積み重ねを信じて、前向きな気持ちで挑むことができました。それぞれ反省点もありましたが、自分達の力を出し切りました。

また、他校の演奏はライブ配信での鑑賞となりましたが、レベルの高い演奏に刺激を受けました。

コンテストの結果は両グループともに銅賞でした。結果には少し悔しさも感じましたが、自分達の目標であった「東関東大会出場」、「納得のいく演奏をする」ということは達成できました。この貴重な体験を今後の演奏活動に活かしていきたいです。長い期間一緒に頑張った仲間と、支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「困難な状況の中で」

矢板ウインドオーケストラ 安達 浄江

「アンサンブルやりたいね…」東関東吹奏楽コンクールが終わったその日、とある人物がぼつりと言った一言がきっかけとなり、私達フルートパートはアンコンに挑戦することになりました。コロナ禍の中、年齢も経験年数もバラバラな私達が、ひとつの音楽を作り上げるのは大変だということにはわかっていたのですが、それ以上に“アンサンブル”はとても魅力的なものでした。みなさんも同じ状況かと思いますが、一緒に練習をする時間を確保するのも難しく、さらに追い打ちをかけるようにコロナ感染者が日に日に増え、気づけば練習場所もなくなりました。アンコン当日に練習場所として予約していた施設からも「貸し出し禁止になりました」と連絡が入り、ますます厳しい状態に。それでもめげずに我が家が集まって練習を行いました。こんな状況の中、私たちを引っ張ってってくれた麻子さんには感謝しかありません。何度も録音・録画を繰り返し、お互いの意見を聞き、麻子さんを中心に美しく一体感のある曲作りをしていきました。フルートパート、初めてのアンコン挑戦は、あとわずかに金に届かず銀賞という結果でしたが、無事演奏を終えた感想は全員が「楽しかった!」というものでした。思うようにいかず悔しい部分もありましたが、帰り道ですでに「来年も同じメンバーで出ようか」「曲、どうする?」という会話がなされ、フルートパートのやる気スイッチはまだONのままのようです。私事ですが、矢板ウインドでは主にピッコロを担当しているので、これほどまでにフルートを熱心に吹いたのは人生で初めてではないかと思っています。瑞希さんは旦那様の転勤で遠い栃木の地に来て、栃木では初めてのアンコンでした。慣れない土地でもがんばり、実力を発揮してくれました。仁菜さんは学生ながらも大人の私たちに必死についてきてくれました。今回のアンコン出場はとても勉強になり、貴重な経験となりました。コロナ禍の中、開催にご尽力いただいた吹奏楽連盟の皆様には心から感謝いたします。



4 クリニック情報

「日本吹奏楽指導者クリニック」について (令和4年2月15日現在)

期日:令和4年5月13日(金) ~ 15日(日)

令和3年度は、大幅に日程を変更して2日間開催でした。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の状況により変更が生じることも考えられます。開催方法や講座内容など詳細については、随時ホームページで確認してください。なお、過年度の講座の様子を動画で見ることができますので参考にしてください。

編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

新型コロナウイルス感染症。やっと改善の兆しが見えたと思ったのも束の間、変異株の感染拡大で再び我慢の日に。一生を左右するかもしれない入試や国家試験にも影響が出ています。2月に予定していた県の講習会も残念ながら中止せざるを得ない状況となり、学びの機会がひとつ今年も消えてしまいました。

活動が制限される中、「できないこと」は枚挙に暇がありません。けれども、だからこそ限られた練習の場を有効に活用し自分を高めていく姿が多くの人で見られ、その姿は演奏できる喜びに溢れています。「今できること」を日々模索しながら活動している指導者を始め各団体の部員の我慢と努力は、きっと報われると思います。それは大会の結果ということだけに限らず、時間を経たからでも～あの時のように～と思いが当たるという長いスパンかもしれません。音楽好きを増やし育てるのは、小さな苗木が長い年月をかけて大きな木になり、林や森に成長していくようなものではないかと思えます。目の前にいる児童生徒や仲間たちが、林や森の新たな担い手として成長を続けていくことを願っています。そのためにも、諦めて歩みを止めるわけにはいきません。例え小さくても新たな道(方法)を全員で試してみましょう。巻頭言の最後にあるように「視点を変え、発想を転換することでコロナや様々な障害を克服して、味のある音楽を創って行こうではありませんか」

昨年12月、今は亡き田中修先生に今回か来年の巻頭言を依頼したい旨をお伝えしたところ、「来年の立ち位置が分からないから今回書きます」と快諾いただき、東関東アンサンブルコンテスト後の1月24日に早々と原稿が届きました。丁寧な「原稿を送ったよ」メールも携帯に残っています。厳しさの中に優しさと温かさが溢れ、深い洞察力や向上心を持って取り組む先生の姿勢に学ぶことが多くありました。一方、バイク愛も強く新しいバイクを前にした満面の笑顔に、「素の田中修さん」を垣間見た気がしました。もっともっと学びたかったと思うのは、決して私だけではないはずです。巻頭言の文章の奥に込められた先生の思いを考えながら、読み返してみようと思います。



田中修先生の残してくださった多くのことに感謝申し上げ、お人柄を偲びつつ 合掌